

日本医史学雑誌第四十二巻総目次

口 絵

故大鳥蘭三郎先生……………二六三

原 著

日本における早発癡呆—「精神」分裂病—概念の受容

……………岡田 靖雄……………二七三

『医語類聚』の著者 海軍大軍医 奥山虎章

……………深瀬 泰旦……………二九〇

マルピーギの医学論……………

……………伊藤 和行……………二九七

不破家華岡流手術記録の検討

……………山内一信・不破 洋……………二九七

華岡青洲の麻醉法の普及について—福井藩橋本左内

……………松木 明知……………二九七

財団法人・日本医学専門学校の学校騒動と私立東京医学

専門学校の独立分離(上)……………唐沢 信安……………三〇三

カスパル・シャムベルケルと「カスパル流外科」(上)

……………ヴォルフガング・ミヒェル……………三〇七

『医心方』に記述される「経義解」の検討

……………真柳 誠・沈 澍農……………三〇六

尾張藩薬園の成立と変遷……………遠藤 正治……………三〇六

カスパル・シャムベルケルと「カスパル流外科」(下)

……………ヴォルフガング・ミヒェル……………三〇七

研究ノート

財団法人・日本医学専門学校の学校騒動と私立東京医学

専門学校の独立分離……………唐沢 信安……………三〇三

『存真環中図』—「史記」幻雲附標所引文からの検討

……………宮川 浩也……………三七〇

西洋・中国・日本のジフテリア史素描 その2 近世

……………中村 昭……………三六七

広 場

『元禄世間咄風聞集』所載の医薬学関連の咄

……………浜田 善利……………三〇〇

マイモニデスの銅像・墓・ヘブライ語表記

……………泉 彪之助……………三九〇

資 料

キナ伝説の里、チンチョンとチンチョン伯爵夫人

……………泉 彪之助……………三九〇

江戸幕府の医療制度に関する史料(七)—鍼科医員上田・

吉田・山本・島山家『宮医家譜』香取 俊光……………三七〇

池田文書の研究(十四)……………池田文書研究会……………三〇四

小島宝素著・森立之写『河清寓記』釈読(上)

……………町 泉寿郎……………三九〇

小島宝素著・森立之写『河清寓記』釈読(下)

……………町 泉寿郎……………三九〇

池田文書の研究(十五)……………池田文書研究会……………三〇三

江戸幕府の医療制度に関する史料(八)—鍼科医員佐田・

………………………………………

追悼

増田・山崎家『官医家譜』など…香取 俊光…六五〇～六六六
大鳥蘭三郎先生の御経歴……………大村 敏郎…四二〇～四三三
大鳥蘭三郎先生の御逝去を悼む……………蒲原 宏…四四〇～四六六
追憶の大鳥蘭三郎先生……………大塚 恭男…四七〇～四八八
大鳥蘭三郎先生の想い出……………酒井 シヅ…四九〇～五〇〇
恩師を偲んで 大鳥蘭三郎先生の三つの顔……………大村 敏郎…四三〇～四三三

宗田一先生の略年譜……………長門谷洋治・坂上俊之…六七〇～六九六
宗田一先生の御逝去を悼む……………蒲原 宏…六〇〇～六三三
宗田一先生を偲ぶ……………山中 太木…六三三～六四四
思い出の宗田一先生……………大塚 恭男…六五五～六六六
宗田一先生と日本医史学会……………酒井 シヅ…六七〇～六八八
宗田一先生を悼む……………深瀬 泰且…六八九～七〇二
宗田一先生と京都の医学史研究……………杉立 義一…六四二～六四四
医史学者として名プランナー 宗田一先生……………長門谷洋治…六四五～六七七

記事

消息

稲村三伯の「ハルマ和解」完成二〇〇年記念事業……………森 納…四四六
蛭田玄仙先生顕彰碑建立及び生誕二五〇年祭の記……………蒲原 宏…四七〇
大鳥蘭三郎先生を偲ぶ会の報告……………大村 敏郎…五三三

例会抄録

一九世紀アメリカ非正統医療における癒し・出産……………鈴木 七美…二〇六
自己形成―植物治療運動と水治療運動……………矢数 道明…二〇七
多紀家関係の諸話題略記……………町 泉寿郎・小曾戸 洋…二〇九
多紀元堅の墨跡……………真柳 誠・郭 秀梅…二一一
多紀元堅の著述……………真柳 誠・郭 秀梅…二一一
不潔の水を善水にする法―スウェーデン法は正しいか……………中西 淳朗…二四四
個人史研究におけるブライヴァシー問題……………岡田 靖雄…二五五
―討論していただくための試論―……………岡田 靖雄…二五五
五行―中国古代医学の枠組み概念 其の二……………家本 誠一…二五三
三才―中国古代医学の枠組み概念 其の三……………家本 誠一…二五四
室町時代より江戸初期までの灸技術について……………角谷 貞雄…二五五
ハーヴェー以前の血液循環理論について……………藤倉 一郎…二五七
オランダ商館長の住友銅吹所見物と饗応・贈答……………片桐 一男…二五八
着想としての内視鏡……………多賀須幸男…四二一
森鷗外作「なかじぎり」解釈の試み……………志田 信男…四三三
―「医」に関する言及をめぐって……………中西 淳朗…六六五
横浜軍陣病院の介抱女……………中西 淳朗…六六五
『大同類聚方』の問題点―同撰―について……………後藤 志朗…六六七
『医則発揮』の著者河津省庵と門人山川揚庵……………石原 昂…六六九
疾病史から見た『傷寒論』……………中村 昭…六八〇

紹介

小俣和一郎著『ナチスもう一つの大罪、「安楽死」とドイツ精神医学』……………泉 彪之助…二七

山下政三著『脚気の歴史ーピタミンの発見』	松田 誠	二八
山田慶兒編『東アジアの本草と植物学の世界』(上・下)		
.....	真柳 誠	二〇
荒井保男著『医の名言』	大滝 紀雄	二三
西山茂夫監修『皮膚科の病名由来ア・ラ・カルト』	I・II	
.....	中西 淳朗	二四
松下正明編『統・精神医学を築いた人びと』(上・下)		
.....	岡田 靖雄	二六
日野秀逸著『保健活動の歩み 人間・社会・健康』		
.....	瀧澤 利行	二七
スチュアート・スピッカー著、石渡隆司・酒井明夫・藤原博訳『医学哲学への招待』	伊藤 和行	二九
クリストファー・ゼクストン著・丸田浩ほか訳『バーネットーメルボルの生んだ天才』	山中 太木	四四
石田純郎著『ヨーロッパ医科学史散歩』	今泉 孝	四四
杉田暉道・長門谷洋治ほか著・系統看護学講座別巻9『看護史』	新村 拓	四七
.....	新尾真智子	四八
新村拓著『出産と生殖観の歴史』	長門谷洋治	六三
青柳精一著『診療報酬の歴史』	その歩み	
北海道医史学研究会編『北海道の医療』	中西 淳朗	六四
.....		
北里研究所医史研編『扁鵲倉公列伝』		
.....	猪飼 祥夫	六五
幻雲注の翻字と研究』	坂本 勇	六七
日本農書全集第六十巻『畜産・獣医』		
R・コルダー著／佐久間昭訳『物語・人間の医学史』	中西 淳朗	六八

杉田綱枝・杉田勇共訳『フーフェラント自伝／医の倫理』

医史学文献目録 平成六(一九九四)年

日本医史学雑誌第四十二巻総目次
 順天堂大学医史学研究室編 四六〇
 六七三

第九十七回 日本医史学会総会演題目次

会長講演

開拓使時代の医療 吉田 信 六

特別講演①

蝦夷地とロシア——北辺医史学の背景としての
 日露関係 秋月 俊幸 三

特別講演②

現代ウイルス学よりみたジェンナーの論文と
 伝記について 加藤 四郎 六

一般口演

- 1 原始巫医の世界的普遍性の考察 奥富 敬之 三
- 2 憑きもの再論 岡田 靖雄 三
- 3 岸田吟香が中国で販売した日本関連の古医書
 真柳 誠・陳 捷 六
- 4 淳子意伝記考 猪飼 祥夫 六
- 5 『清医胡兆新聞答録』——一八〇四年の中国医への

- 問答報告書について……………郭 秀梅・真柳 誠…三〇
- 中国古代人体内景図に於ける脂膜、脂膜について……………高島 文一…三三
- 7 新発見の馬玄台『難経正義』……………王 鉄策・真柳 誠・小曾戸 洋…三六
- 8 谷野一栢著『難経抄』所引医書について……………宮川 浩也…三六
- 9 浅田宗伯と黄遵憲……………陳 捷…三六
- 10 『傷寒論』の「煎・熬」に対する『方言』による解説……………岡田 研吉・郭 秀梅…三〇
- 11 素問・靈枢に於ける血管及び血管病の記載について……………家本 誠一…三〇
- 12 漢代の医療技術について……………和田 裕一…四〇
- 13 中国十六世紀以前の瀉血療法……………友部 和弘・真柳 誠…四〇
- 14 中世における瀉血……………藤倉 一郎…四〇
- 15 歯髓の歴史……………西卷 明彦…三〇
- 16 澁江長伯が蝦夷地で採集した植物標本について……………山岸 喬…三三
- 17 津軽における貞享、元禄年間のケシ栽培の実態……………松木 明知…三三
- 18 森积園苑の書簡類——伊沢柏軒、小島宝素、喜多村直寛、多紀元琰・元估等……………町 泉寿郎・小曾戸 洋…三六
- 19 蘭門五哲の書幅……………小曾戸 洋・町 泉寿郎…三六
- 20 北里柴三郎口述中川愛咲編纂「伝染病研究講義」の内容及びインフルエンザ菌の発見について……………会田 恵・田口 文章…三〇
- 21 卵管の発見者、ガブリエーレ・ファロツピオについて……………藤田 尚男…三三
- 22 チンチヨン伯爵夫人とキナ渡来伝説……………泉 彪之助…三六
- 23 『医語類聚』（奥山虎章）と *Medical Lexicon* (Robley Dunglison)……………深瀬 泰旦…三六
- 24 北陸における法医学の源流……………寺畑 喜朔…三六
- 25 『裁判醫學提綱』にみる「狂」の用語について……………小曾戸明子…三七
- 26 吉村喜作博士とバビンスキー徴候……………田代 邦雄…三七
- 27 日本プロテスタント・ミッション医療伝道の方針転換についての一考察……………高安 伸子…三六
- 28 釈迦とキリストの患者の治療の実態について……………杉田 暉道…三六
- 29 広島原爆救護活動補遺……………江川 義雄…三七
- 30 一七二一年、ポストンにおける天然痘流行と人痘法の施行……………小田 泰子…三〇
- 31 ジェンナーをめぐる二、三の話題……………石田 純郎…三二
- 32 フラカストロの伝染理論……………伊藤 和行…三二
- 33 山本致美訳『扶氏診断』と島村鼎甫訳『扶氏診則』……………津下 健哉…三六
- 34 足立長雋の訳書『産科礎』の成立年代……………津下 健哉…三六

- 35 華岡青洲及び春林軒塾に関する岡山県内資料……………石原 力…六
- 36 高岡長崎家の子弟教育について……………中山 沃・石田 純郎…六
——四代蓬洲、五代浩齋を中心に……………正橋 剛二…三
デンマークの師・マッセン博士に宛てた
野口英世の書簡……………石黒 達也…六
- 37 児玉信嘉宛野口英世16書簡……………石原 理年…六
高坂駒三郎と旧蔵書簡——森鷗外書簡など……………小田 皓二…六
- 39 森鷗外のライプチッヒにおける衛生学研修……………武智 秀夫…一〇〇
- 40 日本消化器病学会発足の頃……………大村 敏郎…一〇三
初期の皮膚科学における東大と京大……………長門谷洋治…一〇四
- 41 アルブレヒト・フォン・ローレツの「皮膚病論一斑」……………今泉 孝…一〇六
- 42 永坂石球(せきたま)(周二)の小伝と日本整形外科への功績……………蒲原 宏…一〇八
- 43 明治前期における医師試験制度と奉職履歴医について……………樋口 輝雄…二〇
- 44 一八八八年の医学校処分について……………黒澤 嘉幸…二三
財団法人・日本医学専門学校の学校騒動と私立東京
医学専門学校の独立分離……………唐沢 信安…二四
- 45 明治女医史の基礎的研究……………三崎 裕子…二六
- 46 明治廿六年医科大学国家医学講習科実録(学生記録)……………石崎 達…二八
- 47 太田正雄(木下李太郎)の医学ノートについて……………黒川 一郎・島田保久・吉田 信…三〇
- 48 徳川昭武公の『順天堂入院日誌』について(第二報)……………中西 淳朗…三三
中国伝統医学と道教(XVI)『三國演義』から……………吉元 昭治…三四
- 49 民間急救療法……………谷津 三雄・渋谷 鉞…三六
日本における作業療法の歴史……………吉見 契子・鈴木 明子…三八
- 50 「看護」という言葉の使用のはじめ(第一報)——看護と
いう言葉はいつから使われるようになったか……………平尾真智子…三〇
- 51 我が国の顕微鏡の由来——和田医学史料館所蔵の
顕微鏡の歴史……………和田和代史…三三
- 52 赤城信一について(第一報)……………上田智夫・小竹英夫・宮下舜一…三四
- 53 札幌徴毒院について……………島田保久・横田 一郎
黒川 一郎・片岡是充・長瀬 清・吉田 信…三六